

(研究実施に関する掲示ポスター)

2018年1月1日から2020年12月31日強度近視外来を受診された患者さんへ 研究協力をお願い

(研究課題名・承認番号)

病的近視眼における乳頭周囲の病変および関連する視野変化の解析（承認番号：M2021-369）

(研究目的)

病的近視はアジアにおいて重要な失明原因であり、日本の失明原因の第4位を占める疾患です。さらに、近年の世界規模の近視人口の増加により、病的近視の患者数が増加傾向にあることが公衆衛生上重要な問題となっています。病的近視による失明の直接の原因となる病変は、近視性黄斑病変と近視性視神経症です。近視性黄斑症に関しては、これまで多くの研究がなされている一方、近視性視神経症に関する研究数はそれほど多くはありません。本研究の目的は、病的近視患者のOCT画像と視野検査結果を用いて、近視による視神経の様々な構造変化を調べ、近視性視神経症による視野障害の要因となる病変を特定することです。

(研究内容)

2018年1月1日から2020年12月31日までに東京医科歯科大学病院強度近視外来を受診し、病的近視と診断され、視神経に対するOCT検査とGoldmann視野検査が実施された患者さんを対象とします。これらのカルテの結果を後向きに見返し、病的近視患者の視神経乳頭OCT画像から同定された各々の視神経の病変に対し、眼軸長、視力、近視性黄斑症などとの関連を分析します。さらに、視神経の各々の病変と視野障害との関連についても解析します。

個人を特定出来るお名前・住所といった情報は一切公表いたしません。また、研究結果の発表時にも個人情報を使用いたしません。研究対象者となる方に新たに費用が生じたり、診療上の不利益が起こることは決してありません。謝礼はございませんが、研究結果をもとにより良い診療及び治療に役立ててまいりたいと思います。

以上の趣旨をご理解いただき、是非この研究にご協力いただけますよう、お願い申し上げます。本研究への参加をご希望されない場合は、遠慮なく下記問い合わせまでお申し出下さい。お申し出後に、収集したデータは破棄します。また本研究への参加をご希望されない場合でも、今後の診療に不利益を被ることは決してありません。

本研究は研究責任者である大野京子宛の寄付金（番号1450・主任研究者：大野京子）を用いて行われています。実施にあたっては、本学利益相反マネジメント委員会及び倫理審査委員会で審議され、利益相反はないです。また、学会発表や論文の公表にあたっては、資金について公表し、研究の透明化を図って参ります。利益相反とは、研究者が企業など、自分の所属する機関以外から研究資金等を提供してもらうことによって、研究結果が特定の企業にとって都合のよいものになっているのではないか・研究結果の公表が公正に行われぬのではないかなどの疑問が第三者から見て生じかねない状態のことを指します。

(研究期間)

医学部倫理審査委員会承認後から2024年12月31日まで

情報の管理の責任者：大野京子

(研究についての内容、問い合わせ等の連絡先)

〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45

東京医科歯科大学病院 眼科 研究責任者 大野京子

電話 03-5803-5302 (対応可能時間帯 平日 9:00～17:00)

苦情窓口：東京医科歯科大学医学部事務部総務係

電話 03-5803-5096 (対応可能時間帯 平日 9:00～17:00)